教育研究業績書

2025年05月07日

所属： 応用音楽学科　　資格： 教授　　氏名： 松本　佳久子

研究分野	研究内容のキーワード
音楽療法　臨床心理　芸術療法	音楽療法　語り　非行臨床
学位	最終学歴
博士（学術）,修士（教育学）,修士（文学）	奈良女子大学大学院人間文化研究科社会生活環境学専攻 博士後期課程修了

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
1 教育方法の実践例		
1.アクティブラーニングスタジオを活用した能動的学習の促進	2014年4月～現在	臨床心理学の授業において、本学アクティブラーニングスタジオを活用し、稼働式ホワイトボードやICTを活用し、グループディスカッションやグループ別課題の発表を行うなど、学生による能動的学習を促進した。
2.音楽療法専修学生による地域貢献活動への参画の促進	2013年8月～現在	「楽器・合奏指導法」や「レパートリーラーニング」の授業の一環として、特別支援学校・放課後等デイサービス・高齢者施設・音楽療法研究室「ラビッコルーム」における参加型コンサート等を、学生が主体となって企画実施する機会を設けた。また、高齢者施設への音楽療法動画の作成送付指導など、コロナ禍にも対応した外部施設との交流のあり方を検討し、養成教育の充実をはかった。
3.学生による相互評価の導入	2013年04月～現在	「楽器・合奏指導法」においてWEBアンケートを導入し、グループ別学習の成果発表について、学生相互による評価をとり入れた。
4.ゼミ指導におけるLMSアプリの導入	2012年4月～現在	ゼミの指導においてLMSを活用することにより、各自の研究計画や文献をグループ内で共有するなど活発な議論と交流を促進したほか、学習に関するスケジュール管理を行うなど、個別・集団双方において学習環境を整えた。
5.実習指導および講義科目におけるLMSの活用	2010年04月～現在	「施設実習Ⅰ・Ⅱ」「音楽療法実習Ⅰ～Ⅳ」「レパートリーラーニング」「楽器・合奏指導法」「音楽療法各論Ⅰ・Ⅲ」「臨床心理学Ⅰ・Ⅱ」などの実習指導および授業科目において、課題提示および提出にLMSを活用することにより、共同担当者と学生の学習状況の把握を可能にし、指導を行った。またLMS上にデータベースのリンクを設け、音楽療法で用いる楽曲やそれにまつわる情報について掲載し、個別学習の環境を整えた。
6.音楽療法実習における定期的な学内指導	2010年04月～現在	実習期間内に年間４回の事例報告会を行い、記録の書き方や実践の評価など、振り返りと指導の時間を設けることにより、学習効果の向上に役立てた。
7.LMSを活用した音楽療法資格試験対策と学習到達度のモニタリング	2010年4月～現在	音楽学部音楽療法研究室に携わる教員、教務助手との連携により、本学におけるLMSを活用して音楽療法士（補）過去問題コースを作成・構築した。このことを通じて、「音楽療法総論」や音楽療法士（補）試験対策の授業において、学生に自身の学習到達度を伝え、授業外における学生に自主学習を促進した。さらに学習到達度についてモニタリングした。その結果、音楽療法士(補)試験の受験者は全国平均を上回る高い合格率に達した。
8.本学部音楽療法コースおよび応用音楽学科卒業生を対象とした認定音楽療法士資格審査のための、実技および面接指導	2009年9月～現在	本学学生ならびに卒業生を対象に、認定音楽療法士の面接実技試験対策として、実技試験および面接に向けた指導を行った。
2 作成した教科書、教材		
1.臨床で活用する音楽素材のデータベース構築	2010年04月～現在	音楽療法の臨床現場において活用できる明治時代以降の音楽素材をデータベース化し、音楽療法実習ならびに音楽療法各論の授業をはじめ、授業外においても学生における教材研究に活用している。
2.LMSを活用した音楽療法資格試験過去問題集	2010年04月～現在	音楽療法士（補）過去問題集を応用音楽学科音楽療法

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
2 作成した教科書、教材		
		専修全体で作成し、受験対策に向けて学生の自主学習を促進した。
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
1.ドラムサークルカンファレンス2025「福祉と音楽　ドラムサークルの可能性」パネリスト	2025年3月9日	一般社団法人VMCグローバルジャパンが主催するドラムサークルカンファレンス2025「福祉と音楽　ドラムサークルの可能性」において、パネリストとして登壇し、生活困窮者や受刑者など福祉の現場におけるドラムサークルのエッセンスの活用について報告した。その後、分科会において参加者とともにディスカッションを行った。
2.名古屋少年鑑別所職員研修講師	2025年2月26日	名古屋少年鑑別所をはじめ、中部管区の少年および成人の矯正施設職員に対して、矯正教育としての音楽療法について講義を行った。
3.立命館大学人間科学研究科博士前期過程臨床心理学領域ゲストスピーカー	2024年11月19日	立命館大学人間科学研究科博士前期過程臨床心理学領域における臨床心理学特講のゲストスピーカーとして、矯正施設における音楽療法について講義を行った。
4.日本臨床発達心理士会奈良支部資格更新研修会講師	2024年5月25日	於　奈良女子大学 臨床発達心理士資格更新研修会の講師として、「非行・加害者臨床における文化的背景に根ざした支援としてのグループナラティヴアプローチ」と題して、福祉・教育、心理専門職の有資格者を対象に講演を行った。
5.名古屋少年鑑別所職員研修会講師	2024年3月15日	名古屋矯正管区及び同館内矯正施設職員を対象に矯正施設被収容者に対する音楽療法について講演した。
6.犯罪心理学会四国地区研究会講師	2024年3月2日	犯罪心理学会四国地区研究会において、矯正施設の専門職員を対象に、司法および非行臨床の場における音楽療法に関する講演を実施した。
7.Tours大学(フランス) ポスドク研究員(在外研修)	2022年9月8日2023年9月7日	Tours大学ポスドク研究員として倫理・教育・健康部門の研究グループに所属し、パリの少年刑事施設における音楽に関するインタビュー調査を実施したほか、刑務所内の音楽活動の調査、移民センターにおける音楽療法を実施した。
8.滋賀刑務所研究授業講師	2020年11月4日	滋賀刑務所において、窃盗再犯防止指導を目指した音楽療法をテーマに研究授業講師を務めた。このことにより、他大学の学識経験者をはじめ、行刑施設及び司法機関関係職員と情報交換を行い、交流を深めた。
9.全国家庭裁判所調査官研究協議会研究会講師	2020年2月8日	全国家庭裁判所調査官の近畿における研究会にて、司法臨床における音楽療法に関する講演とワークショップを実施（予定）
10.第７回中国表現芸術心理療法国際学会	2019年08月09日 ～2019年08月11日	ワークショップ（非行臨床における音楽ナラティヴ・アプローチ）講師を務めた。
11.鳥取少年鑑別所拡大勉強会講師	2018年10月1日	鳥取少年鑑別所主催の拡大勉強会において、家庭裁判所調査官、法務技官、法務教官、刑務官等職員を対象に「刑事施設の音楽療法」に関する講習会を行った。
12.大阪大学大学院人間科学研究科臨床心理専攻非常勤講師	2018年10月～現在	大阪大学大学院人間科学研究科臨床心理専攻非常勤講師を担当
13.立命館大学大学院応用人間科学研究科・人間科学研究科ゲストスピーカー	2018年06月27日と2019年07月10日	立命館大学大学院応用人間科学研究科,人間科学研究科開講科目「社会のなかの人間科学（村本 邦子氏、森岡正芳氏担当）」のゲストスピーカーとして、「刑事施設における音楽療法」に関する講義を行った。
14.加古川学園外部講師	2018年4月1日2024年4月30日	教育支援課程(Ｎ３)の一般改善指導として在院者への音楽療法指導を導入。
15.日本犯罪心理学会研究委員	2018年4月～現在	日本犯罪心理学会近畿地区研究委員を担当
16.滋賀刑務所外部講師	2018年1月22日～現在	A指標の刑務所において外部講師として窃盗再犯防止指導グループ、また諸軍困難受刑者を対象に音楽療法を導入。
17.鳥取少年鑑別所拡大勉強会講師	2017年12月19日と2018年10月1日	鳥取少年鑑別所主催の拡大勉強会において、家庭裁判所調査官、法務技官、法務教官、刑務官等職員を対象に「刑事施設の音楽療法」に関する講習会を行った。

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
18.神戸刑務所外部講師	2017年04月～現在	B指標の行刑施設の処遇困難受刑者（自殺企図、失語症、精神症状）へのアートセラピーの一環として、音楽療法を導入。
19.奈良少年鑑別所拡大勉強会講師	2017年3月５日	奈良少年鑑別所主催の拡大勉強会において、家庭裁判所調査官、法務技官、法務教官、刑務官等職員を対象に「刑事施設の音楽療法」に関する講習会を行った。
20.奈良県中和・吉野生活自立サポートセンター外部講師	2017年02月～現在	奈良県中和・吉野生活自立サポートセンター（奈良県社会福祉協議会・テンプスタッフキャリアコンサルティング株式会社特定委託業務共同事業体による奈良県委託事業）による就労準備支援事業講座の外部講師として、音楽を楽しみ、語る「Musik & Talk」を実施。
21.日本音楽療法学会近畿支部課題研究委員	2012年04月～現在	日本音楽療法学会近畿支部における課題研究委員として、全国大会ならびに近畿支部大会において、学会が推進する課題研究のひとつ「諸民族の文化土壌に根ざした音楽療法」にかかわるラウンドテーブルの企画や研究発表の座長を努め、課題研究を推進している。
22.ひょうごヒューマンケアカレッジ音楽療法講座　講師	2011年08月～現在	兵庫県こころのケアセンターが主催する兵庫県音楽療法士養成講座の講師として「高齢者基礎論」「療法的音楽」を担当し、講義と実技指導を行った。このほか、2017年度養成講座認定式の講演会講師を務めた。
23.奈良女子大学非常勤講師	2008年04月～2013年03月	人間関係行動学特殊研究、音楽教育情報学特論・音楽療法特殊研究担当
24.奈良少年刑務所外部講師	2000年05月2017年03月	少年受刑者と若年受刑者への音楽療法を実践
25.社会福祉法人奈良市社会福祉協議会音楽療法推進室勤務	1994年04月01日2009年03月31日	奈良市音楽療法士養成実務ならびに音楽療法推進室の運営に係る実務のほか、高齢者・障害者児・少年受刑者を対象とした音楽療法を実践した。この他に、地域福祉活動計画のワーキンググループにも参加し、計画策定や地域生活実態調査に参与し、コミュニティにおける音楽療法に携わった。
4 その他		

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
1 資格、免許		
1.公認心理師	2019年2月5日登録	No.18500
2.博士（学術）	2007年09月	
3.日本芸術療法学会認定芸術療法士	2007年03月	No.00135
4.臨床心理士	2007年03月	No.17045
5.奈良県社会福祉主事任用資格	1998年03月	
6.日本音楽療法学会認定音楽療法士	1998年03月	No.162
2 特許等		
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
1.京都刑務所外部講師	2023年11月17日～	京都刑務所の処遇困難受刑者を対象に、音楽療法を実施
2.フランス　トゥール大学　ポスドク客員研究員	2022年9月7日から2023年9月6日	フランス　トゥール大学の教育倫理健康研究チームにおいてポスドク研究員として所属し、教育学部のエルヴェ　ブルトン教授の下、Parisの少年刑務所において音楽を媒介としたライフストーリーのインタビュー調査を行った。
3.加古川学園外部講師	2018年3月14日～現在	加古川学園の教育の一環として音楽療法を導入・実施。
4.滋賀刑務所外部講師	2018年1月22日から2022年3月31日	滋賀刑務所受刑者への処遇の一環として音楽療法を導入・実施。
5.神戸刑務所外部講師	2017年4月1日～現在	神戸刑務所受刑者への処遇の一環として音楽療法を導入・実施。
6.奈良県生活困窮者自立支援事業外部講師	2017年02月23日～現在	奈良県中和・吉野域生活自立サポートセンター・奈良県社会福祉協議会が行う奈良県生活困窮者自立支援事

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
		業における居場所づくりの一環として音楽活動の場を導入し、ソーシャルワーカー、産業カウンセラー、就労支援員とともに、心理的課題を抱える参加者の支援活動を実施した。
7.査読	2016年12月	国際ジャーナル「Culture and Psycohology」（編集代表：JAAN VALSINER）INFORMATION AGE PUBLISHING の査読を担当した。
8.尼崎市立立花公民館「立花市民大学」講座の講師	2016年07月08日	同市民大学は、地域高齢者80名(65歳以上)を対象に年間13回開催しているが、その第３回目として、「音楽で楽しく！健康に」をテーマに講座を担当した。内容は、音楽療法、芸術療法の観点から、健康づくりと介護予防としての音楽の効用について実演を交えながら講義を行った。
9.症例報告	2013年12月07日	奈良県臨床心理士会主催音楽療法ワークショップにおいて、臨床心理士会会員ならびに音楽療法関係者を対象に音楽療法の効用に関する概説とワークショップを行い、その実践例として少年刑務所における症例の報告を行った。（会場：帝塚山大学）
10.同志社大学大学院博士後期課程査読委員	2012年11月2013年3月	同志社大学大学院博士後期課程において、学位論文の査読委員をつとめた。
11.鳥の演劇祭シンポジウム「芸術による社会的包摂ーその実践と未来」パネリスト	2011年09月30日	鳥の劇場運営委員会主催、鳥取県、鳥取市、特定非営利活動法人鳥の劇場共催によるシンンポジウムにおいて、財団法人たんぽぽの家理事長播磨靖夫氏ほか３名とともにパネリストとして登壇し、「コミュニティーにおける音楽療法 ～奈良市における障がい児子育てサロンの事例～」をテーマとして話題提供を行い、コミュニティにおける生活と直結した子育て支援としての音楽療法のあり方と意義について報告した。
12.行刑施設との研究提携	2011年04月～現在	少年刑務所ならびに刑務所との連携により、少年受刑者や成年受刑者に対する音楽療法の臨床研究をすすめた。
13.奈良教育大学との共同研究	2005年06月01日2007年03月31日	文部科学省「特別教育研究経費」による「教育大学の特色・地域性を活かした芸術療法の総合的研究」を目指すプロジェクトとして、地域高齢者を対象とした音楽療法の科学的効果について検証した。その性ホルモンの分泌への効果とそれにつながる臨床モデルを提唱し、この成果について第29回日本神経科学大会において報告した。
14.「奈良市地域福祉計画」拡大作業部会メンバー	2004年04月01日2006年03月31日	社会福祉法に定められている「地域福祉計画」の策定に際し、奈良市から協力の要請があり、拡大作業部会メンバーとして参加した。このなかで、地域における音楽療法の推進と、福祉団体や教育機関における音楽療法の実践を市の計画に位置づけるために検討を行った。
15.「奈良市地域福祉活動計画」策定作業委員会事務局員／ワーキンググループメンバー／起草メンバー	2002年05月01日2003年03月31日	奈良市社会福祉協議会が中心となり、行政・ＮＰＯ・福祉団体・地域福祉の諸団体・地区住民の協働により、福祉のまちづくりを目指した計画を策定・起草し、啓発を図った。
16.奈良教育大学との共同研究	2001年06月01日2002年03月31日	奈良市の音楽療法推進事業と奈良教育大学福井研究室との共同研究により、アルツハイマー病高齢者を対象とした音楽療法の科学的効果について検証し、音楽療法が細胞の活性化を促す性ホルモン（テストステロン、エストラジオール）の分泌を促進することを明らかにした。この成果について、第1回日本音楽療法学会で発表したほか、マスメディアを通じて全国に報道された。
17.奈良少年刑務所外部講師(音楽療法担当)	2000年5月1日2017年3月31日	少年刑務所受刑者への矯正教育の一環として音楽療法を導入・実施。
4 その他		
1.学生部委員	2018年4月2022年3月	学生部委員として、学生の修学および生活支援に携

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
4 その他		
		わっている。
2.大阪矯正管区長感謝状	2015年07月13日2017年03月08日	矯正施設（少年刑務所）の少年教育の一環として、平成12年度から携わってきた音楽療法実践に対する表彰
3.生活美学研究所所員	2015年４月～現在	生活美学研究所所員として、地域住民を対象としたクリエイティブサロン、定例研究会、秋季シンポジウムの企画実施を担当した。
4.発達臨床心理学研究所所員	2014年～現在	発達臨床心理学研究所所員として、総合心理相談室における音楽療法共同研究室ラビッコルームとの連携ならびに教育研究活動に携わっている。
5.情報教育委員	2012年4月～2017年3月	情報教育委員としてICT教育の推進に携わり、その一環として教職員を対象としたLMSを用いた授業の実践報告を行った。
6.FD推進委員	2012年4月～2017年3月	FD推進委員会活動として広報・視察およびアンケート調査・公開授業などに携わった。
7.オープンキャンパスや高校ガイダンスなどにおける音楽療法の概要説明・ワークショップを担当	2009年8月～現在	オープンキャンパスの音楽療法音楽療法の即興演奏やアンサンブルのワークショップを担当するほか、本学指定校における音楽療法の出張講義を実施。

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
1 著書				
1.De la musique en prison en France et au Japon. Ré appropriation de la subjectivité chez les dé linquants mineurs	共	2025年3月	Comment construire une subjectivité carcérale un chercheur en prison dir. de Lionel REBOUT EDITIONS PHANERES	pp253-274の執筆を担当。 Kakuko Matsumoto 刑務所における研究者というテーマにおいて、１節を担当した。 パリの少年受刑者と日本の非行少年における大切な音楽の語りについて調査し、検討した。
2.その人の生が浮かび上がる瞬間ー法務施設にて	単	2024年9月11日	臨床心理学　第24巻第５号　臨床的時間論 金剛出版	p584-588 臨床的時間論を軸として矯正施設における「大切な音楽」の語りから、人生における重要な出来事が時間遡行的に浮かび上がるプロセスを検討した。
3.Chapter 10 “Une approche « musiconarrative » comme pratique d’ accompagnement Clinique” HISTOIRES DE VIE EN FORMATION ET CLINIQUE NARRATIVE AU JAPON É mergence, dé ploiement, mutation	共	2024年1月15日	L’ Harmattan	編著者 Hervé Breton,Makoto Suemoto,Masayoshi Morioka 10章(pp.179-196)を担当。 第１０章　伴奏機能としてのミュージック・ナラティヴ・アプローチと題し、フランスの刑務所における音楽ワークショップとコンサートの実施状況や、日本の矯正施設における音楽を媒介としたナラティヴ・アプローチの実践を通して、ライフストーリーの伴奏機能について論じた。
4.喪失のこころと支援　悲嘆のナラティヴとレジリエンス	共	2023年2月2日	遠見書房	第11章「喪失と音楽」を担当し、語ることが困難な「喪失」経験のある非行少年の「支援」として、音楽のナラティヴアプローチを導入し、そのプロセスと意義について、事例を通して概説した。
5.臨床心理学中事典	共	2022年12月12日	遠見書房 監修　野島一彦 編集委員　森岡正芳・岡村達也・坂井誠・黒木俊秀・津川律子・遠藤利彦・岩壁茂	p43-44 「音楽療法」を担当
6.Retrouver le sens commun : vivre à	共	2021年1月7日	L’Harmattan	Morioka M., Matsumoto K., Hirose K.pp.39-48 コロナ禍において現実をとりもどす方策としての音楽の機能につい

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
1 著書				
l'ère du coronavirus				て明らかにした。
7.書評：門本泉 2019「加害者臨床を学ぶ」―司法・犯罪心理学現場の実践ノート（金剛出版）	単	2020年	臨床心理学　第２０巻第１号　p.122 金剛出版	著者の少年鑑別所や少年院、刑務所での心理技官としての20数年にわたる実践長年の実績から、非行少年や受刑者個々が持つ多様性を尊重しつつ主体的な人として向き合い共感的に理解しようとするなど、あらゆる心理臨床につながる根本的姿勢が貫かれた本書の特長を評した。
8.Making of The Future The Trajectory Equifinality Approach in Cultural Psychology	共	2016年8月	INFORMATION AGE PUBLISHING	安田裕子、サトウタツヤ、Jaan Valsiner 編 Chapter６「大切な音楽についての語りの意味生成と変容～非行少年のグループカウンセリングへの音楽療法の導入」(pp.87-103)を担当執筆し、人格形成途上にある非行少年を対象とし、音楽療法の臨床の場における発達的変容について示した。
9.ワードマップ　複線径路等至性アプローチ（TEA）	共	2015年3月25日	新曜社	安田裕子・滑田明暢・福田茉莉・サトウタツヤ（編） TEAは、複線経路等至性モデル（TEM）,発生の三層モデル（TLMG）,歴史的構造化サンプリング(HSS)によって構成される過程と発生を捉えるえる質的研究の方法論であり、これまで分析ツールとしてのTEMを中心に発展してきた。このTEMを用いたアプローチ(TEA）のひとつとして、司法臨床における音楽療法の実践から、語り手と聞き手の対話を促進し、関係性の変容をもたらすメカニズムについて検討した。 2-1 5)「矯正教育における音楽療法実践」の執筆を担当。 掲載頁pp106-113、担当部分は単著。
10.臨床ナラティヴアプローチ	共	2015年03月20日	ミネルヴァ書房	森岡正芳編著 　近年、ナラティヴ（物語）という観点から人の生活を理解し、支援することが重要視されている。本書は、心理学をはじめ多くの学問分野にまたがって発展してきた臨床ナラティヴ・アプローチの入門書である。 第２部実践編　法務機関でのグループアプローチの執筆を担当。司法臨床領域の現場における臨床ナラティヴ・アプローチの可能性について、「大切な音楽」を媒介とした語りをグループアプローチとして導入した少年受刑者の事例をもとに考察した。 掲載頁pp181-192　担当部分は単著。
11.TEMではじめる質的研究－時間とプロセスを扱う研究をめざして－	共	2009年04月	誠信書房	サトウタツヤ、安田裕子、森直久、尾見康博、松本佳久子、渡邊芳之、田垣正晋、荒川歩、香川秀太、Valsiner Jaan 第４章概念の豊富化と等至点からの前向型研究 第２節『「大切な音楽」を媒介とした少年受刑者の語りの変容と意味生成の過程』の執筆を担当。 少年教育の一環として、少年受刑者のグループカウンセリングに音楽療法を採り入れた経過を質的研究の視点から分析した事例研究。 掲載頁pp.101-122　担当部分は単著。
12.奈良市音楽療法士への道	共	1997年03月	法政出版	大前哲彦、松本佳久子他 奈良市で独自に養成した音楽療法士養成コースのカリキュラムについて解説。「施設実習の実践分析」として、高齢者・障害者・障害児施設の福祉施設における実習のプログラムと評価方法について、担当執筆した。 掲載頁pp45-57　担当部分は単著。
2 学位論文				
1.少年受刑者のグループカウンセリングにおける音楽療法―「大切な音楽」の自己語りにおける意味生成と変容―	単	2007年09月	奈良女子大学　博士論文　学術博士	少年刑務所受刑者の矯正教育への音楽療法の適用を試み、「大切な音楽」の自己語りについてモデルとして提唱し、事例の経過からみられた対話における意味生成と変容について、意味論的視点から考察した。
3 学術論文				
1.刑務所における処遇困難者に対する集団	共	2020年	日本芸術療法学会誌51巻１号 pp.65	鍋島宏之,松本佳久子

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
芸術療法：薬物事犯者の臨床的な変化をとおして			-75 日本芸術療法学会	
2.NARRATIVE-BASED RESEARCH AND PSYCHOSOCIAL PRACTICES IN JAPAN	共	2019年12月刊行	the Brazilian Journal of Autobiographical Research Vol.4, No.12 849-863	Morioka,M. Matsumoto, K., Hirose, K. 日本の心理臨床における、創造的ナラティヴ・アプローチの事例研究として、自己を再創造する過程を検討した。担当箇所では、これらの取り組みのひとつである加害者臨床における音楽療法（音楽を媒介としたナラティヴ・アプローチ）について意味論的分析を行い、報告した。
3.司法領域の音楽療法における他職種との連携	単	2019年３月	「日本音楽療法学会誌」18巻１号 pp.29-37 2018 日本音楽療法学会	松本佳久子 特集「他職種との連携」において、刑事施設や少年院など司法（非行）臨床における音楽療法の導入方法と他職種との連携について実践に基づき報告した。
4.Meaning construction by Musical Narrative-Group therapy approach for juvenile criminals -(査読付)	共	2017年7月4日	Music Therapy Today, Summer 2017.448-449	Matsumoto, K., Takehara, N., Ichinose, T., Igari, U., 行刑施設における受刑者への音楽療法として、「大切な音楽」の語りを導入し、計量テキスト分析と意味論的分析を通じて臨床的変化を検討した。
5.Electronic Musical Instruments to Help Beginners Play Music Ensembles and Discover Errors (査読付)	共	2017年7月	Music Therapy Today,Summer, Vol.13, No.1,pp. 312-313	Ando,Y., Aoki, T.,Takehata,N., Wada, M., Ichinose, T., Yoshizato,T., Matsumoto,K., Okuno, R., Akazawa, K. 音楽初心者のためにバリアフリー楽器Cymisによる合奏システム、ならびに正しいテンポの演奏との差(ずれ)を測定て？きるソフトウェア・プログラムを開発し、システム適用の可能性を検討した。
6.Physiological and Cognitive In vestigation of Playing Instru ments that Serves Effective Co gnitive Stimulus (査読付)	共	2017年7月	Music Therapy Today,Summer, Vol.13, No.1,pp. 535-536	Takehara,N., Aoki,T., Higuchi,T.,Nakayama,M., Y oshizato,T., Matsumoto,K., Ichinose, T., Okuno, R., Akazawa, K. 楽器初心者と音楽専攻者が、決められたテンポにより、音あり・音なし条件てでタッチパネルをポインティングする方法でバリアフリー電子楽器Cymisの演奏を行った。Cymis演奏は、被験者の回答と脳波計測により認知的な刺激になっていることが示された。
7.Novel Musical Instrument for S everely Disabled and Healthy E lderly People to Play (査読付)	共	2017年7月	Music Therapy Today,Summer, Vol.13, No.1,pp. 308-309	Akazawa, K., Horai,M., Masuko,T., Ichinose, T., Matsumoto,K. ,Takehara,N., Okuno,R. バリアフリー電子楽器 Cyber Musical Insturment with Score(Cymis)の概要および諸施設における音楽 療法への適用について報告した。
8.音楽学部教職課程履修学生に対するピアノ教育の取り組み一応用音楽学科における実践報告一（査読付）	共	2017年03月	学校教育センター年報２　武庫川女子大学　学校教育センター	今城道子、一ノ瀬智子、松本佳久子、岩谷寿美子、松川南海、山本麻代、竹原直美 本学応用音楽学科の全学年在学学生を対象にアンケート調査を行い、音楽教員養成に向けたピアノ実技科目に対する学生のニーズならびに音楽経験や自己学習等の現状や傾向を把握し、学習支援のあり方について検討した。
9.音楽療法実習生の振り返りにおける記述の分析 ~経験による「学び」の変化に着目して~（査読付）	共	2017年	栄養科学研究，武庫川女子大学栄養科学研究所	竹原直美・一ノ瀬智子・松本佳久子・長谷川裕紀・青木智美，吉里瞳子 地域高齢者を対象とした音楽療法の実習生による振り返りにおける記述の計量テキスト分析を行い、経験による学びの変化を捉えることを試みた。その結果、学年ごとに用いる言葉の特徴、会話、観察視点の継時的変化を概観するに至った。
10.Novel Electronic Musical Instr ument with Pre-Programmed Scor e for the Disabled	共	2017年	Advanced Biomedical Engineering6: 1-7, 2017.	Akazawa,K.,Ichinose,T.,Matsumoto.,K.Ichise, M., Masuko, T., Okuno, R. We have developed a novel electronic musical instrument with a pre-programmed score, called “ Cymis,” to help the disabled enjoy playing mus ical pieces. The purpose of the

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
to Enjoy Playing Music(査読付)				study was to de monstrate that Cymis is useful and effective fo r helping the severely disabled maintain or imp rove their quality of life. First, the accessib ility of Cymis was revealed by the fact that 34 clients (63%) played Cymis for an average of 5 .6 years. Second, each client?s progress in pe rformance, which possibly re ects improvements of upper-limb motor contro l function, was examined for the longest durati on of over 7 years. Among 31 clients, 13 (42%) showed progress, 17 (55%) showed no change (5 o f whom showed progress initially but then regre ssed to their original status), and 1 (3%) reve aled deterioration in condition. Third, psychol ogical effects were measured using an original Face Scale before and after playing Cymis, for a total of 395 performances by 38 clients. Clie nts became happier in 208 performances (53%), s howed no changes in 139 (35%), and became sadde r in 48 (12%). Finally, with respect to their c are plans, 19 of 52 clients (37%) selected Cymi s in 2015, and this number itself implies the i mportance of Cymis.In conclusion, Cymis was use ful, effective, and attractive to the disabled; it permitted them to enjoy playing music that might not otherwise be possible, and some evidence of therapeutic effect was found.
11.Development of a System Combin ing a New Musical Instrument a nd Kinect: Application to Musi c Therapy for Children with Au tism Spectrum Disorders (査読付)	共	2016年	International Journal of Technology and Inclusive Education, Special Issue Volume 3, Issue 1, 2016,pp. 938-947	Ichinose.T., Takehara.N, Matsumoto.K., Aoki.T., Yoshizato. T., Okuno.R., Watabe. S., Sato.K., Masuko.T., Akazawa, K. This study describes a novel system that links an electronic instrument called Cyber Musical Instrument with Score (Cymis) and a game device called Kinect to provide music therapy for children with autism spectrum disorders (ASD). The system was developed to facilitate independent and active participation of children with ASD in music activities and teach them to integrate visual and audio sensory, motor, and physical awareness. The system combining Cymis and Kinect has been applied to both typically developing children and those with ASD, demonstrating that it can be used appropriately by either group. Prelimi nary studies indicate that the opportunity to “play” a familiar song by making desired move ments can motivate children with ASD or similar cognitive symptoms to improve on-task behavior and collaborate effectively with a partner while the accompanying video images can be either motivating or distracting. The data obtained from these trials can be used for further empirical research and practical application of the system in music therapy for children with ASD.
12.The meaning construction of Musical Narrative-The therapeutic processes in the narratives of life history for juvenile delinquents in jail(査読無)	単	2014年12月	6eme symposium Japonais-Francais de recherche biographique et d’histoires de vie en formation L’Universite de Kobe,l’equipe Profeor-CIREL de l’universite	ライフヒストリー研究において、Musical Narrativeという新たな方法論を提示し、その換喩的意味作用とライフヒストリーの変容のメカニズムについて少年受刑者のグループカウンセリングの事例を通じて概説した。心理臨床の対話における「連想の場」の治療的機能について、意味論的視点から考察した。

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
			SHS de Lille 3 etle College International de Recherche Biographique en Education ont le plaisir de vous convier pp.33-39	
13.集団・福祉コミュニティ 音楽を 媒介とした新たな関係をつむぐ実践研究の試み（査読無）	単	2014年08月	臨床心理学 増刊第6号 pp,171-175 金剛出版	臨床心理職のための『研究論文の教室』」研究論文の読み方・書き方ガイドをテーマにした特集において、集団・福祉コミュニティの領域を担当し、地域高齢者や障害児子育てサロン等に関する実践研究の事例を通して、研究の視点やポイントについて概説した。
14.Important clinical information in music therapy（査読付）	共	2014年07月	Music Therapy Today, Summer 2014, vol.10, No.1, 372-373 World Federation of Music therapy	Takehara N., Yano T., Masuko T., Ichinose T., Matsumoto, K., Aoki T., Yokoya M. 日本の音楽療法の報告書に用いられる言葉の共起関係を可視化した．“ネットワーク分析”の結果に基づき、音楽療法分野における新たな分類・評価法について考察した。分析結果によると音楽に関する言葉が間主観性・自己・他者間の表現・コミュニケーションに関わる言葉と関連することが示唆された。
15.音楽療法におけるテクノロジーの 活用―2000年以降の文献レビューを中心に―（査読付）	共	2014年03月	音楽教育実践ジャーナル,Vol. 11, No-2, 60-65. 日本音楽教育学会	著者:一ノ瀬智子・松本佳久子・竹原直美・渡部信一 音楽療法の領域におけるテクノロジー活用の状況、テクノロジー活用に対する音楽療法士の意識、ならびに養成教育におけるテクノロジー活用の観点から、音楽療法の実践と教育におけるてテクノロジー活用につ関する文献レビューの結果を報告した。
16.Promoting elderly well-being t hrough group music activities: psychological and physiological evaluation. group music activities: psychological and physiological evaluation.（査読付）	共	2011年7月	Music Therapy Today, Summer 2011, Vol.9, No. 1,104-105. World Federation of Music therapy	Ichinose T., Matsumoto K., Masuko T., et al. 社会福祉協議会や地域の専門機関との協働のもと、地域高齢者への音楽活動を、音楽療法を学ぶ大学生が行った。その結果、質問紙による心理指標と生理指標による評価測定により、健康維持・促進のみならず、社会参加への動機づけが認められた。
17.「大切な音楽」についての自己語りの対話における意味作用（その２）～少年受刑者のグループカウンセリングにおける音楽療法～（査読無）	単	2009年03月	臨床音楽療法研究第11号,pp.50-56奈良市音楽療法研究会	少年犯罪受刑者のグループカウンセリングに音楽療法を導入することにより、「友だち」「先輩」「親」など、重要な他者との様々な対人関係や、事件の被害者について語り、多様な自己の在り様について意識するに至った。このことから、語りにおける意味生成と変容について、意味論的視点から検討した。
18.聴覚障害児と健聴児のリズムパターン反応の形成―原初的音楽経験形成のための教育方法の基礎研究―（査読無）	単	2008年04月	教育システム研究，４，pp.77-91 奈良女子大学教育システム研究開発センター	リズムパターン反応の弁別と再生について、聴覚障害児と健聴児との比較検討を行った。
19.「大切な音楽」についての自己語りの対話における意味作用～少年受刑者のグループカウンセリングにおける音楽療法～（査読無）	単	2008年03月	臨床音楽療法研究第10号,pp.68-74 奈良市音楽療法研究会	少年犯罪受刑者のグループカウンセリングに音楽療法を導入することにより、「友だち」「子ども」「彼女」「親」など、重要な他者との様々な対人関係や、事件の被害者について語り、多様な自己の在り様について意識するに至った。このことから、語りにおける意味生成と変容について、意味論的視点から検討した。
20.特集 事例研究の意義	単	2008年01月	日本音楽療法学会	クライエントを理解し、実践に還元するために不可欠な事例研究に

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
を考える「クライエントの理解につながる事例研究」（査読無）			誌Vol.8/No.1 pp.61-66	ついて、研究のあり方と目的・方法について概説した。
21.「大切な音楽」についての自己語りにおける意味の生成と変容について～少年受刑者グループカウンセリングにおける音楽療法の経過から～（査読無）	単	2007年03月	臨床音楽療法研究第９号,pp.69-76 奈良市音楽療法研究会	少年犯罪受刑者のグループカウンセリングに音楽療法を導入し、ピアノを用いてアンサンブルを行い、その後「大切な音楽」の語りを適用した事例の経過において、対話における意味の変化からグループにおける関係性の変化について分析し、考察した。
22.音楽療法とコミュニティーの協働が生み出す社協活動の新たな可能性～奈良市における地区社協主体の障がい児子育てサロン活動の事例から～（査読付）	共	2007年03月	機関誌『日本の地域福祉』（20）p121-130. 日本地域福祉学会	渡邊静穂、松本佳久子、仲島徳巳 自治体が認定する音楽療法士と社会福祉協議会職員の立場から、地域で孤立しがちな障がい児子育て支援活動について、コミュニティーワーカーと音楽療法士が協働することの意味と可能性について報告した。
23.音楽の語りにおける意味生成とその変容について～少年受刑者矯正グループにおける矯正教育としての音楽療法の経過から～（査読無）	単	2006年03月	臨床音楽療法研究第８号,pp.50-57 奈良市音楽療法研究会	少年犯罪受刑者のグループカウンセリングに音楽療法を導入し、ピアノを用いて打楽器のグループ即興演奏やアンサンブルを行い、その後「大切な音楽」の語りを適用した事例の経過において、対話における意味の変化からグループにおける関係性の変化について分析し、考察した。
24.“大切な音楽”についての語りの意味とその変容：少年犯罪グループへの音楽療法の経過から(査読付)	単	2006年03月	日本芸術療法学会誌,35(1)pp.95-103	少年受刑者矯正グループのカウンセリングに「大切な音楽」の語りを適用した事例の経過において、対話における意味生成と変容について考察した。
25.ストレスマネジメントにおける音楽の可能性について--非行臨床における『大切な音楽』の語りから（査読無）	単	2005年10月	更生保護56(10), pp.28- 31 日本更生保護協会/法務省保護局編	処遇者のストレスマネジメントという観点から、音楽療法の果たし得る役割、可能性とともに、非行臨床における処遇の一方法として音楽療法の可能性に ついて述べた。
26.大切にしている歌かが社会とつなが るチャンネルになる『SEE YOU』（査読無）	単	2005年06月	”theミュージックセラピー” 2005vol.7,pp.3 4-35	非行臨床における処遇の事例を通じて、音楽と人とのつながりについて紹介した。
27.アンサンブルにおけるレパートリー曲がグループ内交流にもたらした作用～少年犯罪グループにおける矯正教育としての音楽療法の経過から～（査読無）	単	2005年03月	臨床音楽療法研究第７号,pp.74-82 奈良市音楽療法研究会	少年犯罪受刑者グループに音楽療法を導入し、ピアノを用いてギターとアルトサックスによるアンサンブルを行い、その経過において現れたグループの変化について考察した。
28.少年犯罪グループにおける音楽療法の経過について～“キレる”ことに関する語りを通じたＡの変化～（査読無）	単	2004年03月	臨床音楽療法研究第６号,pp.33-50 奈良市音楽療法研究会	少年犯罪受刑者のグループカウンセリングに導入したピアノを用いて打楽器のグループ即興演奏を行い、その後「大切な音楽」の語りを適用した事例の経過において、対話における意味の変化からグループにおける関係性の変化について分析し、考察した。
29.常習性犯罪受刑者グ	単	2003年03月	臨床音楽療法研究	少年刑務所受刑者の調査から得たライフイベントとその背景にある

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
ループカウンセリングの過去の自己語りにおける音楽の意味作用について（査読無）			第５号,pp.91-97 奈良市音楽療法研究会	音楽との関係について分析した。
30.常習性犯罪受刑者グループの事例Mにおける音楽療法の経過について（査読無）	単	2002年03月	臨床音楽療法研究 第４号,pp.63-76 奈良市音楽療法研究会	常習性犯罪受刑者のグループカウンセリングにピアノを用いて打楽器のグループ即興演奏を行い、その後「大切な音楽」の語りを適用した事例の経過において、対話における意味の変化から、事例における対人関係の変化について分析し、考察した。
31.少年刑務所グループカウンセリングにおける音楽療法導入の試み～受刑者Ａにおける音楽ライフステージを通して～（査読付）	単	2001年11月	長良川国際音楽療法セミナー懸賞論文集、岐阜県音楽療法研究所発行 pp.31-46	常習性犯罪受刑者のグループカウンセリングに導入した音楽療法の導入の事例研究。
32.二重構造の表現を隠れ蓑として自己の感情の抑圧傾向を開放した事例について～常習性犯罪受刑者グループの事例Siにおける音楽療法の経過～（査読無）	単	2001年03月	臨床音楽療法研究 第３号,pp.94-107 奈良市音楽療法研究会	常習性犯罪受刑者のグループカウンセリングに音楽療法を導入し、ピアノを用いて打楽器のグループ即興演奏を行い、その後「大切な音楽」の語りを適用した事例の経過において、対話における意味の変化からグループにおける関係性の変化について分析し、考察した。
33.音楽療法における常習性犯罪受刑者の心的変化について～YA級対象者の個別事例を通して～（査読無）	単	2000年03月	臨床音楽療法研究 第２号,pp.85-106 奈良市音楽療法研究会	常習性犯罪受刑者のグループカウンセリングに音楽療法を導入し、ピアノを用いて打楽器のグループ即興演奏を行い、その後「大切な音楽」の語りを適用した事例の経過において、対話におけるグループの変化について考察した。
34.音楽療法の定着を目指した実践研究の取り組みについて（査読無）	単	1999年03月	臨床音楽療法研究 創刊号,pp.94-107 奈良市音楽療法研究会	音楽療法が福祉現場において普及・定着するのに必要な実践研究のあり方について考察した。
35.四万十川上・中流域のくらしと音楽（Ⅳ）高知県窪川町―１（査読無）	共	1995年10月	神戸大学発達科学部研究紀要1-1 pp.101-116	著者：岩井正浩、上西律子、槇田盤、川本友子、松本佳久子、大塚由貴子、藤川順子、中野伸一、大西賢太郎 四万十川の上中流域における地域住民の生活環境とくらしにかかわる音生活を詳細に調査した。この中で人口動態や産業構造などのデータを基に、伝承文化を支える地域住民のくらしの基盤に関する調査を担当した。
36.四万十川上・中流域のくらしと音楽（Ⅲ）高知県梼原町松原（査読無）	共	1995年03月	神戸大学教育学部研究集録90 pp. 167-190	著者：岩井正浩、樋口昭、桜井寛、藤井千尋、黒田晴子、川本友子、松本佳久子、大塚由貴子 四万十川の上中流域における地域住民の生活環境とくらしにかかわる音生活を詳細に調査した。この中で人口動態や産業構造などのデータを基に、伝承文化を支える地域住民のくらしの基盤に関する調査を担当した。
37.NARRATIVE-BASED RESEARCH AND PSYCHOSOCIAL PRACTICES IN JAPAN	共		M.Morioka, K. Matsumoto, K. Hirose	日本におけナラティヴ・ベイスド研究および実践として、少年受刑者をのグループカウンセリングにおける「大切な音楽」の語りがもたらす語りの意味生成と変容について、事例を通して検討した。
その他				
１．学会ゲストスピーカー				
２．学会発表				
1.障害を有する受刑者		2024年9月	日本犯罪心理学会	松本佳久子,松元雅子,土田文裕

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
２．学会発表				
への集団音楽療法における臨床的変化の検討		14日~１５日	第62回大会（於福山大学）	障害を有する受刑者を対象とした音楽を媒介とした集団芸術療法において、リクエスト曲の演奏や音楽にちなんだ語りから、臨床的変化が見られた事例について、探索的に検討した。
2.The function of the accompanist in musical narrative practice: when prisoners begin to narrate themselves.	共	2024年6月4日~7	ICDS (International Conference on the Dialogical Self)第12回対話的自己国際学会（エストニア タリン大学）	シンポジウムThe function of the Accompaniment in the composition of Dialogical Space: On the micro- generative changes of the self in psychosocial support.（対話空間の構成における伴奏の機能： 心理社会的支援における自己のミクロな生成的変化について）のパネリストとして、「音楽的語りの実践における伴奏者の機能：受刑者が自分自身を語り始めるとき」をテーマに報告した。
3.歌、コラージュ、ジャーナリングを媒介とした主体回復へのナラティヴ・アプローチの検討	共	2023年11月4日	日本質的心理学会第20回大会	於立命館大学いばらきキャンパス シンポジウムを企画し、加害者臨床および非行臨床における歌、コラージュ、ジャーナリングを媒介とした主体回復へのナラティヴ・アプローチとその意義について検討し、討議した。 話題提供者 松本佳久子（武庫川女子大学） 宮本悠起子（名古屋少年鑑別所） 鍋島宏之（奈良少年鑑別所） 谷本拓郎（京都光華女子大学）
4.フランスの少年・若年受刑者の「大切な音楽」についての語りの分析	単	2023年9月23日~24日	日本犯罪心理学会第61回大会	フランスの少年刑務所における受刑者の「大切な音楽」に関するインタビューを行い、ライフストーリーの分析とその特徴について検討した。
5.司法領域における芸術療法の適用に関する研究動向について		2021年10月2日-3	日本犯罪心理学会第59回大会	鍋島宏之，宮本悠起子，松本佳久子 司法領域において芸術療法を適用した先行研究を検討し，加害者臨床における芸術療法の研究動向とその特徴および課題について明らかにした。
6.窃盗再犯防止指導における「音楽ナラティヴ・アプローチ」の適用と語りの分析-感情表現に着目して-	共	2021年10月2日-3	日本犯罪心理学会第59回大会	津村征吾，松本佳久子 在所者への窃盗再犯防止指導の一環として「音楽ナラティヴ・アプローチ」を適用した。その臨床的変化について,感情表現等,非言語行動を含む語りの分析を通して検討する。
7.処遇困難受刑者を対象とした集団芸術療法適用における臨床的変化について	共	2021年10月2日-3	日本犯罪心理学会第59回大会	山口昭子，松元雅子，松本佳久子 精神疾患や高齢に伴う心身機能の低下等，配慮を要する処遇困難受刑者の処遇の検討が課題である。そこで，同受刑者を対象に集団芸術療法を実施し，その臨床的経過を検討した。
8.支援教育課程Ⅲにおける音楽ナラティヴ・アプローチの導入と臨床的変化	単	2021年10月2日-3	日本犯罪心理学会第59回大会	支援教育課程Ⅲ（N3）ならびにコミュニケーションに課題を抱える在院者に対して,「大切な音楽」についての語りを導入した。語りの分析から,臨床的変化を検討した。
9.支援教育課程Ⅲにおける音楽ナラティヴ・アプローチの導入と臨床的変化	共	2020年11月21日~22日	日本犯罪心理学会第５８回大会(オンライン開催)	石飛剛,松本佳久子 少年院の特別支援過程Ⅲである在院者を対象に音楽ナラティヴ ・アプローチを導入し、2回にわたる語りの臨床的変化について計量テキスト分析により検討した。
10.窃盗再犯防止指導における「音楽ナラティヴ・アプローチ」の適用と語りの分析	共	2020年11月21日~22日	日本犯罪心理学会第５８回大会(オンライン開催)	津村征吾,谷口肇,松本佳久子 窃盗再犯防止指導としての音楽ナラティヴ ・アプローチの臨床的変化について、語りの計量テキスト分析を通じて検討した。
11.処遇に配慮を要する受刑者に対する芸術療法の効果について	共	2020年11月21日~22日	日本犯罪心理学会第５８回大会(オンライン開催)	松本佳久子，岡部はるか,山口昭子，村上芳巳,鍋島宏之 刑務所における処遇困難者に音楽療法を導入し、その臨床的変化について、参加者の終了時インタビューの計量テキスト分析（内容分析）から検討した。
12.The group process of meaning construction by Musical Narrative	共	2020年7月7日	World Congress of Music Therapy	Kakuko Matsumoto, Tomoko Ichinose, Naomi Takhara, Yuji Igari 少年刑務所におけるMusical Narrative Approach導入を通した若年受刑者の語りの臨床的変化について、計量テキスト分析により検討

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
２．学会発表				
-Communicative practice for young offenders				した。
13.窃盗再犯防止指導における受刑者グループへの 音楽ナラティヴ・アプローチの導入	共	2019年8月31日	日本犯罪心理学会第５７回大会（日本女子大学）	松本佳久子，前川誠 刑務所法務教官との共同により、窃盗再犯防止指導の一環である音楽療法の臨床的変化について、語りの計量テキスト分析により探索的に検討した。
14.Meaning Construction by Musical Narrative-a Group Therapy Approach for Juvenile Criminal	共	2019年6月28日	4th International Congress Collaborative-Dialogic Practice(Masaryk University, Chek)	松本佳久子，森岡正芳 第4回協同-対話実践国際学会において、少年受刑者に対する音楽ナラティヴアプローチの実践の場において見られた対話の意味の生成と変容過程について質的分析を行い、報告した。
15.処遇困難受刑者への集団芸術療法「アート体験」導入の検討ー薬物事犯者の臨床的変化を通してー	共	2018年10月27日	第50回日本芸術療法学会(京都文教大学)	鍋島宏之、篠田美香、松本佳久子 不眠、抑うつ、パニックにより精神科通院歴があり、自傷行為から物品制限されていた薬物事犯受刑者に対し、コラージュと音楽療法から成る「アート体験」を導入し、心情安定につながった事例の経過とその要因について報告した。
16.「大切な音楽」を媒介とした語りと沈黙ー受刑者への音楽ナラティヴ アプローチ	単	2018年9月16日	第18回日本音楽療法学会(サンポートホール高松)	松本佳久子 自主シンポジウム「日本における音楽心理療法の発展と可能性（企画者　猪狩裕史）」に登壇し、司法臨床・非行臨床における音楽ナラティヴアプローチの取り組みの心理療法における位置付けとその実践概要を報告した。
17.「アート体験」を通じた処遇困難受刑者への適応援助ー集団音楽療法を用いた統合失調症受刑者の事例における臨床的変化ー	共	2018年9月1日	日本心理臨床学会第37回大会(神戸国際会議場他)	松本佳久子,鍋島宏之,宮本悠起子 処遇困難受刑者の安定的な生活の維持を目指して導入した集団音楽療法において、事例（統合失調症疑い、自殺企図・自傷あり）の経過と臨床的変化について報告した。
18.Meaning construction by musical narrative for criminals	共	2018年6月14日	University of Minho, Braga, Portugal 第10回対話的自己国際学会The 10th International Conference on the Dialogical Self(ICDS：The International Society for Dialogical Science)	Masayoshi Morioka, Koichi Hirose, Kakuko Matsumoto, Ken Sugiura パネルディスカッションにおいて、若年受刑者の集団療法における音楽を媒介としたナラティヴアプローチを通じて、語りにおける意味生成と変容を意味論的に分析し、報告した。
19.処遇困難受刑者への音楽療法導入による探索的検討	共	2017年09月02日	日本犯罪心理学会	松本佳久子,鍋島宏之,宮本悠起子 高齢者や精神障害を含むいわゆる処遇困難事例と言われる受刑者に、再販防止や、集団における適応を目指し、アート体験活動を導入した。本研究では、その一環として行った音楽療法の効果について質的・量的研究を通じて探索的に検討した。
20.Knowing/Communicating The Clinical Process In Music Therapy Practice 2 Illustrative Approaches	共	2017年7月7日	The 15th World Congress of Music Therapy	Ikuno, R., Gilvertson, S., Matsumoto, K., Miyake, H. ラウンドテーブル「臨床の知・音楽療法実践におけるプロセスの内容を知ることと伝えること」に登壇し、質的・量的検討を含めたプロセスの可視化について事例研究を通じて報告した。
21.Meaning	共	2017年7月5	The 15th World	Matsumoto, K., Takehara, N., Ichinose, T., Igar i, U., 行刑施

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
２．学会発表				
Construction by Musica l Narrative : Group Therapy Ap proach for Juvenile Criminals		日	Congress of Music Therapy	設における受刑者への音楽療法として、「大切な音楽」の語りを導入し、計量テキスト分析と意味論的分析を通し？て臨床的変化を検討した。
22.若年受刑者に対する音楽療法の効果検証	共	2016年10月19日	大阪矯正実務研究会（於　プリムローズ大阪）	井上慎、小西好彦、松本佳久子 奈良少年刑務所において、受刑者への矯正教育の一貫として実施している音楽療法の成果について報告した。当日は大阪管区をはじめ、検察、同管区に所属する矯正施設の教育専門官ら関係者が参加した。
23.Meaning construction by Musical Narrative-Group therapy approach for juvenile delinquents-(Topic Session ”when the living moment is created in the therapeutic dialogue”)-	単	2016年09月07日～10	The John Paul II Catholic University of Lublin, POLAND 第９回対話的自己国際会議 the Ninth International Conference on the Dialogical Self (ICDS：The International Society for Dialogical Science)	Masayoshi Morioka, Koichi Hirose, Kakuko Matsumoto トピックセッションにおいて、心理臨床場面における事例研究報告を担当した。少年受刑者の集団音楽療法として導入した「大切な音楽」を媒介とした語りにおいて、臨床的変化を意味論的に分析し、検討した。
24.少年受刑者グループにおける音楽療法の活用-語りの変化に着目して-	共	2016年09月04日	第54回日本犯罪心理学会（東洋大学）	松本佳久子、井上慎、小西好彦 発達障害や鬱を背景に持つ少年受刑者のグループカウンセリングに音楽療法を導入し、語りの変化に着目して意味論的分析を行った。それと同時に、語りと非言語コミュニケーションから抽出したテキストデータを計量テキスト分析することによって探索的検討を行い、臨床的変化の可視化を試みた。
25.”大切な音楽”によって示されるものと語られるもの一少年受刑者への集団音楽療法の語りにおけるコンテクストの分析一	共	2015年11月28日	第47回日本芸術療法学会（目白大学）	松本佳久子,竹原直美 少年刑務所に収容されている少年受刑者への音楽療法として、「大切な音楽」の語りの事例において、示されるものとその語りについてテキストマイニングと意味論的分析から検討した。
26.発達障がいの疑いのある就学前児への集団音楽療法による社会性促進～ELANを用いた行動観察による評価を中心とした事例研究～	共	2015年09月12日	第15回 日本音楽療法学会学術大会（札幌）発表要旨集 p42	串田加奈，松本佳久子,竹原直美 発達障がいの疑いのある就学前児童の音楽療法の事例において、対象児の行動を記録し、社会的遊びやアイコンタクトなどの非言語コミュニケーションなど社会性の観点からELANを用いた分析を行い、音楽療法による社会性促進を検討した。
27.“大切な音楽”をテーマとした語りの換喩的意味作用と連想の場 ―少年受刑者グループへの活用事例―	単	2014年10月18日	日本催眠医学心理学会第60回・日本臨床催眠学会第16回合同大会	少年受刑者のグループカウンセリングにおいて、「大切な音楽」を媒介とした語りを導入した。このことによる換喩的意味作用と、それらの意味の生成と変容がもたらす連想の場について報告した。
28.障害児への音楽療法における親の心理的変化について～母親へのインタビューとアンケート調査の事例から～	共	2014年09月21日	第14回 日本音楽療法学 会学術大会，p.227	寺岡千紘，吉里瞳子，竹原直美，松本佳久子 障がい児の音楽療法場面・生活場面におけるコミュ ニケーション・関わり行動の変化と保護者の心理的 側面の変化について調査した結果を報告した。
29.音楽と映像の相乗効	共	2014年09月	第14回 日本音楽療	松野純男，向畑美菜，竹原直美，松本佳久子，一ノ瀬智子，長谷川

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
２．学会発表				
果が気分と印 象に与える影響		21日	法学会学術大会要旨集，p.211	裕紀 音楽と映像のずれの影響について発表した。結果では、ダンス経験者において、課題ごとの印象の変化を敏感に認知する傾向を認めた。また、主成分分析を用いることで、この変化が精神的な「緊張」「緩和」に基づくものであることが示された。「緊張」「緩和」の指標として、唾液中s-IgAが有用な生体指標になる可能性が示された。
30.ELANを用いた音楽療法の臨床記録 ・評価の構築・分析に関する基礎 研究Ⅰ～重度障がい児の音声表現・コミュニケーション場面に注目 した分析事例～	共	2014年09月20日	第14回 日本音楽療法学会学術大会，p.109	竹原直美・一ノ瀬智子・松本佳久子・青木智美・吉里瞳子 音声映像に直接注釈をつけることのできるELANを用いた音楽療法の臨床評価法について紹介した。重度障がい児の音楽療法における対象児・臨床者間の表現・コミュニケーションを可視化・定量化するため の評価・分析手法について発表した。
31.ELANを用いた音楽療法の臨床記録 ・評価の構築・分析に関する基礎 研究Ⅱ～広汎性発達障がい児の音楽療法場面における遊びと社会的 発達の変化の分析事例～	共	2014年09月20日	第14回 日本音楽療法学会学術大会，p.110	増田沙耶香・竹原直美・青木智美・松本佳久子 広汎性発達障がい児の音楽療法中の遊びの社会的参加度と表現の主張性・協調性、セラピストの関わり方の変化について音声映像を通じた評価を行った。結果では、遊び行動の変化より、社会性発達の向上が示され、セラピストの関わり方の変化には、対象児童の社会性の発達の変化が反映されていることが示された。
32.Meaning Construction and Its Transformation in Musical Narrative with a personal meaning ～ Music Therapy in Group Counseling for Juvenile Delinquents～	共	2014年08月21日	The Eighth International Conference on the Dialogical Self The Hague University, The Hague, The Netherlands.	森岡正芳、廣瀬幸市、松本佳久子、井倉未樹、川島由理子、中薗冴子 ”The imaginative area created in the psychotherapeutic dialogue”をテーマとしたトピックグループの中で、少年受刑者の語りとその意味作用について事例を通じて考察した。
33.IMPORTANT CLINICAL INFORMATION IN MUSIC THERAPY	共	2014年07月08日	World Congress of Music Therapy 2014 Abstr acts POSTERS, P0023,July 7-12, 2014, pp359-360.	Naomi Takehara, Tamaki Yano, Tsutomu Masuko, Tomoko Ichinose, Kakuko Matsumoto, Tomomi Aoki, Megue Yokoya 日本の音楽療法の報告書に用いられる言葉の共起関係を可視化した”ネットワーク分析”の結果に基づき、音楽療法分野における新たな分類・評価法について考察した。分析結果によると、音楽に関する言葉が間主観性・自己・他者間の表現・コミュニケーションに関わる言葉と繋がりを持つことが示された。
34.障がい児を対象としたコミュニケ ーション支援・評価 システム構 築に関する基礎研究	共	2014年03月	日本音響学会、2013年 春季研究発表会講演論 文CDROM,pp.1485-1486	竹原直美、松本佳久子他長時間の音楽療法場面の音 声映像に、音楽的発達と言語的発達、臨床関係(遊びの関係)や表現・コミュニケーション行動に関わる 重要な情報を総合的に記録・評価・分析するための 基礎研究の事例について発表した。
35.言葉のつながりから音楽療法の臨 床を理解する～2001年～2010年の 児童領域における質的事例報告の 計量分析を通じて～	共	2013年09月07日	第13回 日本音楽療法学会学術大会要旨集，p.91	竹原直美，青木智美，一ノ瀬智子，松本佳久子，横家愛恵 音楽療法士の観点を計量言語的に明らかにするための基礎研究として2001～2005年度の日本音楽療法学会学術大会要旨集より、児童領域の事例報告文書の関連用語分析を行い、その結果を報告した。
36.「大切な音楽」についての語りにおける意味生成と変容～少年受刑者のグループ アートセラピーと語り～	単	2013年09月	日本犯罪心理学会第51回大会　大阪教育大学	少年受刑者４名のグループカウンセリングの事例から、矯正教育に激しく抵抗を示していた受刑者における「大切な音楽」を媒介とした語りの変化と意味作用について検討し、報告した。
37.“大切な音楽”によって示されるもの	共	2012年12月	第44回日本芸術療法学会　創価大学	松本佳久子、篠山義郎 少年受刑者のグループカウンセリングに音楽療法を導入することに

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
２．学会発表				
と語られるもの～少年受刑者グループカウンセリングにおける音楽療法～				より、自らの事件や問題に直面するなどの変化がみられた事例の経過から、「大切な音楽」によって示されるものとと語られるものの意味と、セラピーにおける機序について検討し、報告した。
38.音楽療法の報告書に関する計量分 析の試み～児童領域の臨床研究に 必要な情報を探る～	共	2012年09月09日	第12回 日本音楽療法学会学術大会，p.80	竹原直美，青木智美，一ノ瀬智子，松本佳久子，横家愛恵 音楽療法士の観点を計量言語的に明らかにするための基礎研究として2001～2005年度の日本音楽療法学会学術大会要旨集より、児童領域の事例報告文書の関連用語分析を行い、その結果を報告した。
39.画像と音楽の相乗効果がもたらす心理的変化について	共	2012年09月	第12回日本音楽療法学会学術大会（宮崎シーガイアコンベンションセンター）	松本佳久子,中西めぐ,松野純男,一ノ瀬智子,益子務 TATの図版に異なる性質の音楽を組み合わせることにより、気分・印象・語りにどのような変化をもたらすのかを検討し、それらの変化に個人の内的要因がどのように作用するのかを心理的側面から考察した。
40.音楽療法の質的事例報告に関する 計量分析の試み～歌唱とこころ・ からだ・社会に着目して～	共	2011年09月10日	第11回 日本音楽療法学会学術大会要旨集，p.74	竹原 直美，一ノ瀬 智子，松本 佳久子 音楽療法の多量の事例報告を計量的に分析する試みを行い、歌唱と関連がみられる言葉の抽出結果と、大会のテーマであった、こころ・からだ・社会に注目した分析結果を発表した。
41.Promoting elderly well-being through group music activities: psychological and physiological evaluation	共	2011年07月	2011 WFMT World Congress of Music Therapy in Seoul, Korea Sookmyung Women's University	一ノ瀬智子，長谷川裕紀，松本佳久子,深見のどか、篠永綾香、渡辺恭子、岡部真由美、北田恵子、仲野杏奈、山田麻惟子、益子務 高齢者の健康増進という観点から集団音楽活動の効果を身体・心理・生理学的側面から評価を行った。
42.“大切な音楽”をテーマとした自己語りの換喩的意味作用矯正教育における臨床への活用事例から	単	2010年10月	日本催眠医学心理学会・日本臨床催眠学会第12回合同学術大会（鹿児島大学）	少年受刑者のグループカウンセリングにおいて「大切な音楽」の語りから重要な他者や出来事について語るに至った事例から、語りにおける音楽の換喩的意味作用と意識変容への影響について考察し、報告した。
43.地域高齢者を対象とした音楽活動による介入効果～ＰＯＭＳと免疫・内分泌系	共	2010年09月	第10回日本音楽療法学会学術大会 於：神戸国際会議場	長谷川裕紀・一ノ瀬智子・篠永綾香・深見のどか・渡辺恭子・松本佳久子・益子務 武庫川女子大学高齢者栄養科学研究センターによる地域プロジェクト「音楽で楽しく健康のつどい」参加者を対象として、音楽活動が及ぼす心理的・生理的な効果について検証した。
３．総説				
1.特別記事：臨床の経験が研究への扉をひらく時	単	2024年	近畿音楽療法学会誌 vol.23	特別記事p11~14 松本佳久子 実践における経験で得たことが音楽療法の研究にどのようにつながるかについて概説した。
４．芸術（建築模型等含む）・スポーツ分野の業績				
５．報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等				
1.ナラティヴ・ミュージックセッションの実施		2024年8月2日~８日	Histoire de vie, récits et savoirs expérientiels en formation et santé 「教育と健康におけるライフストーリー、語り、経験知」のワークショップ	教育と健康におけるライフストーリー、語り、経験知」のワークショップに参加したほか、参加者に対して、ナラティヴ・ミュージックセッションを行った。
2.ナラティヴ・コミュニティ：話題提供：ミュージック・ナラティヴによる協働	共	2022年3月12日13:00-16:00	ナラティヴ・コロキウム（遠見書房）	生活困窮者就労準備支援事業の利用者や、矯正施設の処遇困難受刑者・非行少年等のグループにおいて音楽を媒介としたナラティヴ・アプローチを導入し、コミュニティとつなぐ取り組みの事例を報告した。

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
５．報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等				
3.ひと・社会・地域資源への“つながり”としての音楽－アートを媒介としたナラティ ヴ ・アプローチの可能性－	共	2018年12月6日	第56回日本犯罪心理学会（於　奈良県立文化会館）	アート体験やセラピーをすでに導入している５施設の矯正職員が施設内処遇から地域援助に至る音楽療法や音楽活動の取り組みを話題提供し、学識経験者である指定討論者のコメントを受けてアートを媒介としたナラティヴアプローチの司法臨床における可能性について検討した。 （企画・司会　松本佳久子） 【話題提供者】：鍋島宏之（神戸刑務所　調査専門官）、宮本悠起子（大阪矯正管区　調査専門官）、谷本拓郎（鳥取少年鑑別所　法務技官）、上出晶子（奈良少年鑑別所　所長）、小西好彦・前川誠（滋賀刑務所　法務教官）、大森正義・岡崎忠司（加古川学園　教育専門官）【指定討論者】森岡正芳（立命館大学）
4.自己の回復のための臨床ナラティヴ・アプローチ	共	2018年11月	国際シンポジウム「社会科学とフィールドワークにおける挑戦、シカゴ学派以降のナラティヴアプローチと協同的ダイナミクス」(トゥール大学　フランス)	Kakuko Matsumoto,Masayoshi Morioka 自殺念慮のある若年受刑者を対象に音楽ナラティヴアプローチを適応し、自己の回復に至るプロセスについて分析し、報告した。また、薬物依存者における健康日誌の導入など、他のアプローチを行う研究者と意見交換を行った。
5.Meaning construction by musical narrative for criminals	単	2018年6月13日	第10回対話的自己国際学会(ポルトガル　ブラガ)	Panel discussion”Dialogical space as embodied polyphonic self can be emerged(企画：森岡正芳)”に登壇し、若年受刑者における音楽ナラティヴ アプローチ導入例の経過でみられた語りの意味生成について報告した。
6.臨床から理論をつむぐ～非行臨床の現場における試みについて～	共	2016年9月17日	第16回日本音楽療法学会（仙台国際センター）	自主シンポジウム”日本における音楽療法のさらなる発展を目指して～臨床・研究・理論の３本柱を考える”（企画：猪狩裕史）の話題提供者として、演繹と帰納、質的と量的などの間にある臨床的研究の視点や理論について、事例研究を通じて報告し議論を深めた。
7.Musical Narrativeとその意味作用―少年受刑者によるライフヒストリーの語りの変容から	単	2014年12月04日9:30～18:00	第6回ライフヒストリー研究日仏国際シンポジウム（リール第３大学） 神戸大学ライフヒストリー研究会・神戸大学大学院人間発達環境学研究科主催/リール第3大学Profeor CIREL共催	「語る」ことを方法とするライフヒストリーに，心理学，教育学，社会学，人類学等，さまざまな方面からの関心が集まっています。ライフヒストリーを人間科学の実践的研究方法として取り組んできた現状について、午後は日本の社会教育研究，臨床心理学研究の立場からの報告をし，リール第3大学のニヴィアドムスキー教授らによるProfeor CIREL研究者グループ*との協議を行い，実践=研究方法としてのライフヒストリーに関する研究の交流と課題について討議した。報告８として、少年受刑者におけるMusical Narrativeを導入することによるライフストーリの意味生成と変容について報告した。
8.コミュニティーにおける音楽療法 ～奈良市における障がい児子育てサロンの事例～	単	2011年09月25日	鳥の演劇祭シンポジウム『芸術による社会的包摂ーその実践と未来』 主催　鳥の劇場運営委員会 共催　鳥取県　鳥取市　特定非営利活動法人鳥の劇場	パネリスト：播磨靖夫（財団法人たんぽぽの家理事長）・竹川俊夫（鳥取大学地域学部地域政策学科准教授）・福森伸（社会福祉法人太陽会入所支援施設しょうぶ学園施設長）・井手添敬子（NPO法人「楽」理事長・福祉美容師）松本佳久子 進行：五島朋子（鳥取大学地域学部附属芸術文化センター准教授） パネリストとして登壇し、コミュニティーにおける音楽療法を通じた障がい児子育てサロンの事例を通じてコミュニティにおける生活と直結した子育て支援としての音楽療法のあり方と意義について報告した。
9.非行少年の語りと音楽	共	2011年09月	日本心理臨床学会	相談室での非行少年への対応 ―非行の専門機関以外で心理臨床家が非行少年にかかわるにはどうすればよいか― 企画者　岡本英生　河野荘子　話題提供者　橋本和明　松本佳久子　崎長幸恵 指定討論者　齊藤誠一　河野荘子 非行の専門機関以外で非行ケースを扱う場合のむずかしさ，問題点などを検討しつつ，非行ケースへの効果的な対応の仕方や今後の課題などについて検討した。そのなかで、少年刑務所におけるグルー

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
５．報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等				
10.少年刑務所と音楽療法―心の闇 届く「大切な音楽」の語り	共	2008年01月	臨床心理学8(1) 金剛出版	プカウンセリングの事例について報告した。 エッセイ:リンショウゲンバ 43」を担当。 少年刑務所における音楽療法の現場で出会ったいく つかの事例を通して、少年受刑者の特徴と彼らの心 の闇に届く音楽について述べた。 編集者:伊藤良子、乾吉佑、岸本寛史、北山修、鶴 光代、下山晴彦、田嶌誠一、村瀬嘉代子、森岡正芳 掲載頁pp72 -74 担当部分は単著。
６．研究費の取得状況				
1.処遇困難者の再犯防止に向けた音楽療法プログラムの構築	共	2019年～2024年度	基盤研究(C)	再犯防止推進法が2016年から施行され、刑事施設の高齢化をはじめ精神障害や発達障害等により、集団への適応が難しい処遇困難者の特性に応じた再犯防止プログラムの検討が課題となっている。本研究では、刑事施設の処遇困難者をはじめ社会性が低く配慮を要する少年院在院者に音楽療法プログラムを適用し、情緒的・言語的相互反応のプロセスにおける語用論的言語機能の改善・促進について着目した評価方法を、再犯リスクアセスメントに基づいて検討する。 （代表：松本佳久子）
2.発達障害におけるコミュニケーションの文脈に視点をおいた音楽療法プログラムの構造化	共	2015年～2018年度	基盤研究（C）	本研究は、発達障害における社会性の障害に着目し、前言語（Pre-Verbal）から言語的（Verbal）段階に至コミュニケーションを促進する音楽療法プログラムの構築を目指す。 そのために、臨床において、意味の生成と変容をもたらす時間・空間的コンテクストに着目し、コミュニケーションにおける質的変化の可視化を目指す。 具体的には、沈黙や「間（ま）」などの前言語的感情表出行動をコード化し、データベースを作成し、計量テキスト分析ソフトKHcoderによる共起ネットワーク分析により空間的文脈を示す。またELANによる行動分析を通じて感情表出行動の時間的コンテクストを示す。これらの計量的分析と関与観察によるナラティヴ分析とを統合する質的・定量的評価方法を検討する。 （代表：松本佳久子）
3.発達障害児への音楽療法における ICT(情報通信技術)を活用した 楽曲演奏	共	2014年～2016年度	基盤研究(C)	本研究は、多くの発達障害児が困難を抱える物事の 因果関係や順序性の理解を促進することを目的とした音楽療法のためのプログラム開発を目的とする。 そのために視覚、聴覚、身体意識を統合するための 楽曲演奏の方法として、バリアフリー電子楽器Cymis（Cyber Musical Instrumentwith Score)、ならひび に動作により操作するゲームデバイスKinect(マイクロソフト社)を適用する。そのことにより、ICT(情報通信技術)を活用し、楽器演奏を介した世界初 の発達障害児への音楽療法プロトコルを構築する。（代表：一ノ瀬智子）
4.生活史法による臨床物語論の構築と公共化	共	2013年04月～2016年度	基盤研究(A)	ナラティヴ(物語;語り)という視点は、個人の体験の現実に接近する視点を提供するものである。本研究は生活史を自己物語(self-narrative)の観点から基礎づけ、医学や教育学にまたがる領域における生活史の方法論を統合し、心理教育的方法として洗練させる。そして心理臨床、医療看護、障害者の自立支援、コミュニティ教育・成人教育などの心理社会的支援に活用する。この実践を通じて、生活史法を人間科学に定位し、臨床物語論の公共的な展開を目指す。 （代表：森岡正芳）

学会及び社会における活動等	
年月日	事項
1.2008年04月～現在（理事就任は、2015年05月～）	奈良県臨床心理士会(理事)
2.2008年02月～現在	日本エリクソンクラブ会員
3.2007年10月～現在	日本臨床催眠学会
4.2004年06月～現在	日本犯罪心理学会会員
5.2004年04月～現在	日本心理臨床学会会員
6.2004年03月～現在	日本地域福祉学会会員
7.1997年04月～現在	日本芸術療法学会会員

学会及び社会における活動等	
年月日	事項
６．研究費の取得状況	
8.1997年03月～2008年03月、2013年09月～現在	日本音楽教育学会会員
9.1995年08月～現在	日本音楽療法学会会員